

ゆるりと流れるドナウ川の西、王宮の丘と呼ばれる高台にこの教会は建っている。眼下に広がるペスト地区を一望でき、ハンガリーの長い歴史を背負っている。

その起こりは13世紀に発し、王ベーラ4世の命により、ロマネスク様式で建造された。14世紀になるとゴシック様式で建て直され、15世紀、マーチャーシュ王により増築される。16世紀に入りブダがトルコに占領されると、崇拜の対象はアラーの神となり、モスクに改装された。

17世紀にハプスブルグ家によってトルコから開放されると、再びカトリック教会に戻ったが、ファザードはバロック様式に改装された。19世紀ハプスブルグ帝国のフランツ・ヨーゼフ皇帝が、かつてのゴシック様式の姿にするよう命じ、建築家シュレック・フリジェシュが過去の資料からゴシックを基本に改装した。

その後、第2次世界大戦時に被害を受けたが、戦後シュレックが改装した姿に復元され、現在に至っている。

ハンガリー史の中で、この教会は様々な姿に改装され、その時代の背景に取込まれている。上記に列記したキーワードからも、それに関った人物や建築様式と多様な要素を経験していることが分かる。

ペスト地区から王宮の丘を望むと、鎖橋・王宮・漁夫の砦・ゲッレルトの丘など著名な場所がずらりと並ぶが、その中でも一際目立つマーチャーシュ教会がハンガリーの歴史を如実に現している。

